

クローズアップ マイタウンJOTO

大阪初の国産「洋ローソク」をつくって来ました

(株)河野ローソク製造所(城東区今福南1丁目) 河野 佳子さん

大阪初の国産「洋ローソク」 をつくって来ました



やすらぎを感じるローソクの灯り。炎をじっと見つめていると心が落ち着き、和んでくるから不思議です。現在、目にするローソクの多くは、明治時代に伝わった西洋のローソクです。今回は、大阪で初めて「洋ローソクづくり」に取り組んだ今福南1丁目の「河野ローソク製造所」で、社長を務める河野佳子さんに、そのあゆみと地域に対する想いをうかがいました。

イギリス直伝の「洋ローソク」づくり

洋ローソクとは、パラフィン蠟などを用いた、糸芯入りのローソクです。量産可能な製造技術で、明治以後、それまでの木蠟を使用した和ローソクに代わって急速

に普及しました。

明治の終わりごろ、河野ローソク製造所社長の河野佳子さんの伯父が、イギリスの製造業者・ライジングサン石油から、直接技術指導を受けました。これが、洋ローソクの技術が大阪の地で実を結ぶきっかけとなったのです。

二人三脚で「さくら印」を発展

昭和21年、佳子さんの父は、事業を伯父から引き継ぎ、今福南に現在の会社を創業しました。大阪初の国産洋ローソク。受け継いだ技術に独自の改良を加え、社員総がかりの創意工夫で、効率的な流れを生み出していきました。

高度経済成長期に入った昭和30年代前半、佳子さんは結婚し、



▲熱したロウを慎重に注ぐ

夫である腕而さんが会社を引き継ぐことになりました。河野ローソクは全国各地に卸され、売れ行きも好調でした。

「主人は昭和一桁生まれの九州男児。夜の12時ぐらまで懸命に働いていました。自分に厳しい分、人にも厳しく従業員のなかには主人に注意され泣いて帰った人もいました」と佳子さん。しかし、手先は器用でクリエイティブでもありました。会社の顔となる「さくら印」の商標や断面が桜の形になっているユニークなローソクなどは、腕而さんが考えられたそうです。

一方、佳子さんは、陸上部で国体に出たこともある体育会系。職場ではきびきびと動き、工場の作業の中で一番難しいといわれる、ローソクの芯通しも得意でした。

しかし、職場ではご主人を立て、やり方に口をはさむことはほとんどなかったそうです。



▲芯でつながった状態のローソクを切り分ける



▲できあがったローソクを検品中



▲仏事用からインテリアまでさまざまな用途のローソクを製造



▲さくら型の断面が愛らしい

夫婦に任せていきたいそうです。

さくら印のローソクは、四天王寺、大念仏寺、薬師寺、霊仙寺、善光寺、根来寺などの仏事で長年使用されているほか、区内のイベントでも活躍。アイラブ城北川実行委員会と区役所が主催で毎年開催する「キャンドルナイトin城北川」には、毎年2000本余りのローソクが提供されています。

「城東区で生まれ育ち、火事の時も地域のみなさんに助けられ、今の私たちがあります。その恩返しになれば」と佳子さん。災難にあっても、あきらめずつくり続け

てきたローソクの灯りは、いつまでもあたたかく人の心を照らすでしょう。



▲四天王寺の灯明に使用されています



ローソクの灯りに城東区の魅力が浮かび上がる

アイラブ城北川実行委員会 事務局次長 高田 利恵さん



「城東区の魅力の1つである城北川。その川に親しみをもってもらい、みんなの集いの場になることによって城北川の魅力を発見してもらいたい。」そんな願いから始まったアイラブ城北川プロジェクトを私たちアイラブ城北川実行委員会と区役所で協働して展開しています。

最初、「キャンドルナイトin城北川」の話がでたとき、1番の問題はローソクをどうするかということでした。実行委員の1人から河野ローソクさんのお名前があがって、無理を承知でお願いさせていただきました。

河野ローソク社長の佳子さんは、キャンドルナイトin城北川のお話に賛同してくだ

さり、二つ返事で「まかせといて!」と快くローソクを提供していただきました。今年で、5回目を迎えることができるのも、河野ローソクさんのご協力があってこそ。本当に感謝しています。

河野ローソクさんの優しさと私たちの願いがこめられた、キャンドルナイトin城北川を皆さんもぜひ見に来てください!



★今年の「キャンドルナイトin城北川」については4ページをご覧ください。

「たまに意見が合わず言い争っても、5分もたたないうちに『おとうさん』と私から笑顔で寄っていきました。気まずい思いをするより、負けるが勝ちでしょう」

どん底に人のやさしさが身に染みる

夫婦で力を合わせて築き上げてきた会社が、ある日放火に遭いました。

「夜中にどこからかポンと変な音がしたかと思うと、かまどから火がぶわっと燃え広がって…恐かったです。命は助かったものの、工場は全焼しました」

いち早く営業再開するには、燃えたものを処分し、工場を建て直さなければなりません。佳子さんは、ショックとストレスでしばらく食べ物がのどを通らなかったと話します。

「子どもたちをはじめ、ローソクを卸している会社や、お寺、息子が通っていた学校の先生、みんなが心配してくれました。布団や服を送ってくださったり、『しばらく息子さんを預かりましょうか』と言ってくださったりする方もいました。みなさんの応援がなければ、立ち直れませんでした」

地域を照らす「ローソクの灯り」

河野ローソク製造所は、創業時の想いを引き継いで、よりよいローソクづくりをめざして地道に努力を重ねてきました。7年前、佳子さんはご主人に先立たれ社長に就任。今後は、将来を考えて仕事を息子



▲ご家族と従業員の方が力を合わせて伝統を守る

CONTENTS

- 2 **クローズアップ** 大阪初の国産「洋ローソク」をつくって来ました (株)河野ローソク製造所 河野 佳子さん
- 4 **トピックス** キャンドルナイトin城北川/城東区健康まつり/ピックアップ! 区政会議
- 6 **お知らせ** 医療証を更新します/国民健康保険被保険者証を更新します 年賀状コンテスト2018作品募集
- 7 **子育て** わくわく子育てクリスマスコンサート/スキルアップ! ママカフェ
- 8 **健康** 特定健康診査/麻しん・風しん(MR) 予防接種/予防接種・結核健診・各種がん検診等の日程
- 9 **相談** 城東区役所での専門相談/市民法律相談/行政相談/就労相談/経営相談
- 10 **イベント・講座** 地域人権学習会を開催します!/城東区食育フェスティバル
- 13 **城東区通信** 松本区長の城東大好記/地活協だより
- 14 **おおさか掲示板**

